

いつ来てもなにかやっている、それがみの〜れ

いつでもアート空間 「陽だまり横丁」

深まる秋の便りに陽だまりが恋しい季節がきた。赤や黄色の落ち葉の絨毯の上をたまにはゆっくりと歩いてみませんか。みの〜れの入口を入ると「陽だまり横丁」という何だかワクワクするスペースがあります。今回は「陽だまり横丁」を企画運営する住民プロジェクトチーム陽だまり隊メンバー、納場地区にお住まいの高橋華英さん取材する。



「みの〜れは自分の世界、そして人の輪を広げてくれる場所。」と語る高橋さん。

陽だまり隊メンバー

か え い
高橋 華英 さん

みの〜れと共に生活するスタイル

Minole Life
のすすめ

No.53

高橋さんの趣味は、リコーダーを演奏すること。リコーダーサークル「ピッコロ」に入ったのが4年前。「大好きな栗コーダーカルテット（リコーダー演奏で有名なグループ）」とピッコロが共演する機会があつてそのサークルに飛び込んでいった。このときからずっとリコーダーを続けていきたいと思ひ、私の人生が変わった」と話す。

リコーダーは月1〜2回の自主練習と月1回の先生の指導で活動している。また、「自分で編み物を作ったり、イラストを書いたりするのも好き。市民文化祭の展示を見に行くのが楽しみで、子育てが一段落したら色々なことに挑戦してみたい」と語ってくれた。高橋さんとみの〜れの出

会いは、ある時の自己紹介。『クラフト製作が得意です。』と自己紹介したら、その場にいた方にみの〜れの陽だまり隊を紹介された。それがきっかけで陽だまり隊に加入し、今年で3年になる。

陽だまり隊とは、出展者を探して期間や条件を調整しつつ、年間のラインナップを企画している住民プロジェクトチーム。さらに、企画の中に自主企画を盛り込むことで、静から動へつなげていきたいと考えている。今年の自主企画は「みの〜れ川柳」。現在、作品を募集しているとのこと。自分の夢や願いを詠んでもよし。サンタさんへのプレゼントを詠んでもよし。新年に向けて希望の川柳を詠んでもよし。小さいお子様からおじいちゃんおばあちゃんまで、どしどし応募をお待ちしている。高橋さんも一句詠んで応募したという。

「陽だまり隊に入って一番良かったことはたくさんの人と知り合いになれたこと。小美玉さくらフェスティバルやみの〜れ10歳記念事業の企画にも参加してたくさんの友達が出来た。みの〜れのボランティアに参加していなかったら文化祭だけにしか来なかったかもしれない。また、私にとつての陽だまり横丁は、こういう世界もあるんだなと自分の世界を広げてくれる企画。いつでも作品が展示されているので、みなさんもふらっとみの〜れに寄ってみてください。陽だまり横丁の作品に刺激を受け、何かを始めるきっかけとなっていたらとても嬉しいです。そして、まだまだ陽だまり横丁の存在を知らない人が多いので、もっともっと多くの人に陽だまり横丁、そしてみの〜れのことを広めていきたい」と話してくれた。

(藤田 佐知子)